

部会長挨拶

薄井洋基
(神戸大学)

流体と粒子が単独または混在する系は、化学工学の分野のほとんど全ての生産活動に関与しています。このような複雑多岐にわたる系の取り扱い技術をしっかりとした基礎的学問に立脚して確立し、最先端の応用分野まで網羅した研究活動と、現場における生産活動を行うことは工学の分野で大変重要です。これまで化学工学の分野では移動現象を基礎として、混相流としての取り扱い技術、粉体工学分野の手法、個々の化学装置における設計手法の開発など積極的な取り組みが行われてきました。この度、粒子・流体分野の技術者、研究者が大同団結し、この分野の活力を一層高めて行くために、平成 14 年 4 月から粒子・流体プロセス部会が発足いたしました。

粒子流体プロセス部会の構成は組織構成図のように考えています。すなわち、粒子・流体プロセス部会の基礎は、移動現象であると位置付け、これまで活動してきた熱物質流体工学特別研究会が分科会としてこの分野をカバーします。更に混相流工学、粉体工学などの分野の粒子に関与する専門性を加味したものを基礎学問とします。また、マイクロサイエンス工学など化学工学の高度化を目指す分野も横断的な基礎学問分野として、粒子・流体プロセス部会の基礎に位置付けています。

一方、個別の分野として、これまで活動してきたミキシング、流動層、気泡塔、熱利用プロセスの各分野を分科会として位置付け、新たに粉体工学の分野の研究者・技術者を中心として粉体プロセス分科会を発足させました。

「粒子・流体プロセス部会」の設立の理念を下記のように規定しました。

「粒子・流体プロセス部会を設立することによって、化学工学会の粒子・流体プロセスング、熱・物質移動に関する学問分野の一層の活性化を図り、この分野における化学工学会の代表として、外部に対しても積極的に働きかける。また、化学工学および周辺学会に参加している研究者・技術者に広く「粒子・流体プロセス部会」への参加を働きかけ、本部会の拡大と共に化学工学会の会員増強に寄与する。」

粒子・流体プロセス部会では、化学工学会秋季大会における「粒子・流体プロセスの基礎と展開」を始め様々な企画(国際交流、講演・講習会、出版、学会誌特集など)を計画しております。

本部会では、できるだけ広く個人会員、賛助会員(事業所・研究所単位でご参加いただけます)、学生会員を募り、自由活発に交流を図ることで、粒子・流体プロセスに関わる議論を深めていきたいと思っております。本部会にご入会希望の方、またはご興味をお持ちの方は、是非、下記までお問合せ、お申込み下さいますようお願い申し上げます。